

第六期長期・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第6回実施分（令和4年12月9日開催） 自由記載欄

【傍聴者 会場4名・オンライン10名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者5名記載）

- ・討議要項 p31 「時代にあったコミュニティのあり方検討」の必要がうたわれながら、第六期コミュニティ市民委員会を最後に、12年間にわたり、なにも包括的な議論がなされていない理由を是非知りたいたと感じました。コミュニティの担い手の問題は最重要の課題であると思いますので…。
- ・最後に交わされた評価素案で評価シートの位置づけや課題についての議論は、前回と比べて今回はかみあっていて、大変興味深く拝聴しました。
- ・全体的に委員長の進行が非常に上手だと感じた。例えば、討議要項の役割を再確認し、メンバーと共有したあたりのやり取りは秀逸。委員の発言の中で「老人を活用～」との表現があった。この場の議論に限って、コンパクトな表現をしたかったのだろうが、人を道具のように言う言い回しに寒々しさを覚えた。せめて「老人の方にも活躍して頂き～」等の言い回しが出来なかっただろうか？小さなことかもしれないが、最終的に計画が完成したときに、そうしたドライな感覚がにじみ出ないようにして欲しい。
- ・討議要綱(素案)に行数が表示されて便利になりありがたいです。会議中も話についていきやすくなりました。
- ・「保育の質」「農地について」「エコreゾート」など市民会議でも意見が多く出たことを伝えていただきありがとうございます。
- ・「地域の見識のある高齢者」による地域で子育て案ですが、私の周り的高齢者はあまり地域の子育てには興味がないようです。地域差でしょうか。また、既にあそべえ等で子どもに関わっている方もいますが、あまり子どもの人権について考えた事がないのでは？という危なっかしい感じ(“権利と義務はセット”な考え)がするので、そうでない方を見つけるのが大変な気がします。
- ・施策評価シートのSDGsですが、少々こじつけが過ぎるのでは？…と苦笑いしてしまうのもありました。あまり無理しすぎるとSDGsウォッシュになりそうで怖いです。
- ・インクルーシブ教育システムとインクルーシブ教育の違いがはっきりしていないと感じました。長計に書かれているインクルーシブ教育システムは国連から勧告されている合理的配慮が普通学級で提供

されない分離型教育です。

- ・少子化対策施策前に原因分析でしょうという意見は、いじめでもそうですし、不登校も、教員の多忙もそうです。文科省の不登校調査に対してNHKや練馬区の当事者調査結果が違いすぎる。
- ・委員の発言の「結婚前の若者に対する施策の充実」には大賛成。Q7の私の第二の意見：出生率向上には「必須事項！」
- ・委員の発言の「フレイル予防（による健康寿命の延伸）」も大賛成。Q7の私の第一の意見：多摩市のように市長のリーダーシップで、各部署挙げて健康寿命延伸に取り組み、医療介護費の節約を！
- ・委員の発言の「何故子どもを産んでもらえないのか、の分析が必要」はナンセンスではないか？若者の将来不安、出産子育て負担（経済面、時間面、心理面）、ワンオペ、収入問題、相対的貧困等、複合要因として明確。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。（傍聴者 名記載）

- ・討議要項（素案）p13「世界で突出した低金利政策」の意味するところが分かりません。なぜ「世界で突出になってしまうか」と言えば、長期デフレと需要供給ギャップの克服という明確な政策目的がある訳で、あえて言及するなら「出口戦略のタイミング」「為替レートの変動」など、不確定要素が増している…等の表現に修正すべきではないでしょうか？
- ・フレイル予防の取り組みは、例えば「健康づくり推進委員」の自主的な取り組みにゆだねてきているはず。そのことをしっかりと踏まえ、既に得られた成果がなぜ要綱に提示されていないのか？地域包括ケアの枠組みと関連付けての討議をしっかりと行ってほしい。
- ・「議会」というのは、本来、住民の代表（代理）の合議体のはず。策定委員会の“抵抗勢力”のような位置づけにならないことを願う。行政職員の日々のご苦勞を思うと「安全」な道を選びたくなるが、あえて議論を挑発することも必要では？
- ・8/6に行われたワークショップに参加して以降、この調整計画には関心を持っておりました。ようやく本日初めて傍聴できました。さすが市の最上位施策でもあり、事務局もしっかり陣営を整えており、委員の顔ぶれも良い議論ができるメンバーだと感じました。一方で、これだけ充実した会議の傍聴が、市議含めてわずか4名というのは寂しいと思います。
- ・最終的に調整計画が完成した折に、冊子やリーフレットも作成されると思いますが、多言語化して欲しいと思います。評価に関する委員や委員長のアプローチは重要だと思います。

- ・個別計画で「長期計画(調整計画)で議論する」という結論にしてしまうと、「長期計画(調整計画)に書いてある/ない」同様、長期計画(調整計画)の策定が「何らかの決定のお墨付きを与えるもの」という誤解を増幅してしまうのではないかと危惧します。
- ・教育委員会の事業評価をさらに子どもたちに評価してもらいたい。
- ・第一の意見は、少子高齢化を少しでも食い止めるべく、長計指標として出生率(合計特殊出生率)と人口の自然増を、率先して入れる様に提案したい。どこの自治体も人口推移と予測はあるが、社会増と自然増の比率を公表すべき。隠すことの無い様！ またP9の「◆少子高齢社会の一層の進展」の表現は、まるで是認しているかの様な印象もしくは諦めを感じたので、見直して頂きたい。
- ・第二の意見は、社会福祉費用が特別会計だけで足りず、一般会計の赤字国債で補填はたいへんまづらい。提案としては、我々シニア層を始めとする市民が医療介護費節約を目的に、ボランティアがアチコチで運営する健康寿命延伸活動、例えば見所ジョギングや低山里山ウォークに、いつでもどこでも誰でも参加できる様にして欲しい。国や自治体の膨大な借金が、若者の将来不安の要因であり、第一の意見と繋がっている。将来世代へのツケをドンドン増やしていく政治家や行政を信用しないし、あてにできないので、声も上げない若者が多いのも現実である。
- ・その他、ウクライナへのロシア侵攻による、防衛費倍増計画に関する記述がない！財務担当シッカリ。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。

また、委員名については削除しています。